

事業所職員向け 児童発達支援評価表

公表:令和 5 年 2 月 28 日

事業所名 東京YWCAキッズガーデン

		チェック項目	はい	いいえ	無回答	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	14	5	2	○その日の療育で使用しない物は片づける等環境を整えている。 ○7,8名位までは、ちょうど良いスペースだが、今後10名に増えた時に十分なスペースを確保するのは難しいと思う。 ○グループによっては、狭く感じる部屋がある。4 ○子どもの人数に対して部屋が小さく接触等が怖い。走り回る等の遊び以外の提案をしている。 ○10名が限度と感じる部屋もあるため、2Fホールや園庭も使用していく。 ○多少部屋によっては狭いが、子どもに目も手も届きやすい。 ○実習生がいる時には部屋が狭い。
	②	職員の配置数は適切である	14	5	2	○この人数比で見れた方が良いと思うが、安全に過ごす事も難しい時がある。 ○対一で支援が必要なお子さんがるため、状況に応じて人が足りないと感じる時もある。 ○プログラム(散歩等)によっては、手が足りなく感じる時がある。2 ○手が回らない日もあるが、いる人数でやるしかない。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	17	3	1	○子どもたちが活動に集中しやすくするために余計な物をおかない。 ○通路に物が多く、整理できていない事が多い。3 ○3グループが同時にトイレを使うタイミングになってしまった時に数が足りなく感じる。 ○隣のグループと空間の1部がつながっていて、活動音がきになり、見に行ってしまうたり、聴覚過敏の子どももいるので、完全に分けたいと思う時もある。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	19	1	1	○毎日、清掃し清潔な環境を維持している。2 ○静と動の活動を分けて行うことが出来ない時がある。 ○そうなるよう環境設定をするなど心がけている。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	20	1	0	○チーム全体で話し合う時間を設けている。 ○時間が無い中、できる限り取り組んでいる。 ○常勤を中心に適正だと思う。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	19	1	1	○施設として、保護者への意向は組まれていたと思う。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	16	2	3	○更新が出来ていない内容もあると思う。3 ○HPPはこまめにチェックしていけると良い。 ○HPPは適正な内容が公開されていると思う。 ○毎月通信配布
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	16	2	3	○アドバイザーが入ったの研修を定期的実施。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	21	0	0	○研修の中で様々な議題にふれることで、視野が広がる。 ○統合研を行うことで、外部との情報共有も行っている。 ○定期的に職員研修日を設けている。 ○非常勤ももっと専門的な外部の研修に参加できる機会がほしい。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	21	0	0	○職員全体でそのお子さんの状況を確認し、保護者の方と話しアセスメントを行っている。 ○相談支援事業所と定期的連絡をとり情報共有した上で、支援計画に活かした。 ○それぞれの子どもの個別支援計画を日々記録している。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	16	4	1	○支援計画を立てた際は、常に丁寧な説明をしている。

適切な支援の提供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	19	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ○項目が偏らないよう配慮している。 ○各グループで話し合った上でIEPを作成。その中でどの項目が必要か話し合いはできていた。また、できあがった計画書も職員・施設長、アドバイザーが必ず目を通すシステムとなっている。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	20	0	1	<ul style="list-style-type: none"> ○職員全員で支援計画を把握し実施している。 ○1日の活動内容で必ず発達支援計画の内容に取組む時間を組んだ。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	21	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ○チームで話し合いの時間を設けている。2 ○各クラスで話し合い、前年のものも参考にしながらプログラムを決めている。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	21	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ○年間計画にそって活動を計画すすめている。 ○子どもの特性とニーズをよく考えて行っていると思う。 ○各クラスで話し合っ、その時点に適したプログラムを行っている。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	21	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ○集団でのことばかりでなく、必要な場合は個別課題を行う。2
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	21	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ○短い打合せ時間の中で、職員の動きや子どもの対応など話し合っている。 ○前日の振返りの中で、翌日の活動を話し合い、当日朝再度話し合った上で確認している。2
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	20	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ○年度末は十分に振返りが出来ない時もある。 ○振返りを行い、休み等で参加できない職員も読めるよう記録を残している。 ○日々、振返り時間を確保している。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	21	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ○IEPをはじめ記録をしっかりとるようにしている。3
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	15	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ○日々の療育、保護者との話しで判断している。 ○グループ内で話し合い、定期的に見直しを行っている。
関係機関や保護者との連	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	20	0	1	<ul style="list-style-type: none"> ○必要に応じて話し合いに適切な職員が出席している。 ○一人一人担当職員がいるが、必要とあれば施設長やOT等、必要な職員も参加している。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	18	0	3	<ul style="list-style-type: none"> ○気になること(保護者や児童心身面等)がある場合はすぐに連絡できるような関係性が作られている。 ○計画相談が入ったことでより充実してきている。 ○電話や統合研等で連携を行っている。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	14	2	5	<ul style="list-style-type: none"> ○基本、保護者を通しての連携を行っている。保護者より情報をもらい、連携を行っている。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	12	2	7	<ul style="list-style-type: none"> ○連携とれる準備はできていると思う。 ○保護者を通して連携を行っている。職員で情報共有できるようファイリングされている。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	21	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ○電話や研修会等で連携をとり、お子さんにとって良いタイミングで移行できるよう話し合っている。2 ○子どもたちの併用先を訪問したり、統合研を開催している。2

携関係機関や保護者との連携	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	20	0	1	○書類や面談で引継ぎを実施。2 ○入学前に就学支援シートを作成している。
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	14	3	4	○研修の機会当あれば良い。 ○定期的にアドバイザーによる研修、相談支援事業所とのモニタリング等連携。
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4	17	0	○併用先訪問した際、定型発達児の様子をみることはあるが、一緒に活動することはない。
	②⑨	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	10	7	○施設長が出席
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	20	0	1	○療育であったことを保護者に伝え、そこを切り口に日々の様子も聞けるようにしている。2 ○担当職員が会えない時も他の職員が伝える等、チームでフォローもできている。
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	17	0	4	○気になる事はお迎え時や連絡ノートで伝えてもらうようにしている。 ○キッズテラスや障がいのある子どものきょうだい児の会等行っている。2 ○母親参加プログラムや父親参加プログラムの実施。
保護者への説明責任等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	15	0	6	○現場職員やに質問がきた場合も事務局との連携ができています。
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	19	0	2	○定期的に面談週間が組まれている。また急を要する時には、それ以外に個別面談も行っている。
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	20	0	1	○面談を定期的に実施するため、送迎時に必ず保護者への声かけを行っている。 ○電話、面談などいつでも。2
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	17	1	3	
	③⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	20	0	1	○すぐにチームで話し合い、対応を検討する。 ○問題によっては施設長や事務局も入って対応している。 ○保護者からの相談の申入れがあった時は、個別に面談を実施している。
	③⑰	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	20	0	1	○毎月、各グループごとに写真付き通信で活動を伝えている。4
	③⑱	個人情報の取扱いに十分注意している	20	0	1	○シュレッダーや溶解BOXを活用し、必要ない物は残さない。
	③⑲	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	20	0	1	○送迎時の声かけ。 ○絵カード等使用している。
	④⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	19	0	2	○クリスマスバザー等の実施。4

非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	19	0	2	○マニュアル作成あり。年間予定で定期的に訓練している。2
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	20	0	1	○色々な場面想定をして訓練を行っている。4
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	20	0	1	○一覧にして、全体で確認している。 ○健康の記録の提出。個別に面談を行い情報を職員で共有している。2
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	19	0	2	○座席に配慮し、掃除等を行っている。 ○保護者にアレルギー確認をし個別対応を行っている。
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	21	0	0	○毎日、朝礼でヒヤリ報告。年統計をとり工夫、改善できるよう職員共有している。
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	21	0	0	○研修に参加した職員が、職員研修で報告し、情報共有している。
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	17	2	2	○事前に保護者に確認をとる。止むを得ず身体拘束が必要になった時は、チームで話し合う。また保護者にもその後詳しく状況とその意図を説明する。 ○保護者への説明責任は果たしている。 ○身体拘束は行っていないが、バス通園時のシートベルト固定に対し、個別に相談、保護者確認、承諾を得た。 ○離席を防ぐために子どもの身体を押さえる時などは、保護者に理由を説明している。2